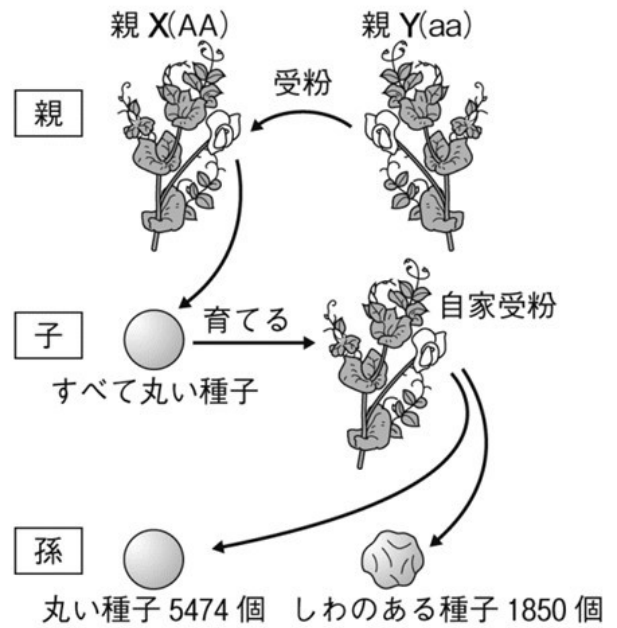


第2分野 1-8 遺伝の規則性②

右の図のように、代々まるい種子をつくるエンドウ（親Xとする）の柱頭に、代々しわのある種子をつくるエンドウ（親Yとする）の花粉を人工受粉させた。かけ合わせてできた種子は、すべてまるい種子となった。子の世代のまるい種子を育て、子どもで自家受粉させた後、できた孫の世代のまるい種子としわのある種子の数をすべて調べた。これについて、以下の問いに答えなさい。



- (1) 劣性形質はまるい種子としわのある種子のどちらか。
- (2) 図の親Xと親Yのそれぞれのエンドウがつくる生殖細胞の遺伝子を答えなさい。
- (3) 親Xと親Yをかけ合わせてできた子がもつ遺伝子の組み合わせを答えなさい。
- (4) 子がつくる生殖細胞の遺伝子をすべて答えなさい。
- (5) (4)より、子どもを自家受粉させたときにできる孫の遺伝子の組み合わせをすべて答えなさい。
- (6) (5)の遺伝子の組み合わせの中で、しわのある種子をつくる遺伝子の組み合わせはどれか。
- (7) 図の結果より、孫の代において優性形質と劣性形質の数の比はいくらか。簡単な整数比で答えなさい。
- (8) オーストリアの司祭で、このような実験によって遺伝の規則性を発見した人物の名前を答えなさい。

(1)		
(2)	(親X)	(親Y)
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		
(8)		